

草原がつなぐ人・自然・文化

全国草原再生ネットワーク

ニュースレター vol.40 (Oct. 2019)



秋の稲取細野高原（静岡県東伊豆町／東伊豆町提供）

次回の全国草原サミット・シンポジウムについて

次回の「第13回全国草原サミット・シンポジウム in 東伊豆大会」の日程が、2020年9月27日(日)～28日(月)に決定したことをお伝えしましたが、実行委員会が開催され、本格的な準備が進められる

こととなりました。

第1回実行委員会の様子について、東伊豆町の担当の方から報告をいただきます。

第13回全国草原サミット・シンポジウム in 東伊豆

第1回実行委員会について

(岩崎名臣：東伊豆町役場)

8月27日(火)、「全国草原サミット・シンポジウム in 東伊豆大会」の第1回実行委員会が東伊豆町役場会議室にて開催されました。会議には全国草原再生ネットワーク高橋会長をはじめ、太田町長や細野高原を管理する地元の自治会長など17名の委員が出席し、来年の開催に向けて全体のスケジュールや予算などについて協議いたしました。1回目の会議ということで全体的な内容が話し合われましたが、委員の中からは開催に向けてイベント的に勉強会や講演会などを行い、住民の機運を高めることも大事ではないかという意見もありました。

大会は2020年9月27日(日)～28日(月)の2日間の予定で開催され、シンポジウムや稲取細野高原での現地見学会、サミットなどが行われる予定となっています。2日間という中でタイトなスケジュールとなりますが、事務局としてスムーズな進行を心掛けていきたいと思っております。

そして今回、現地見学会で皆様に行っていただく当町が誇る「稲取細野高原」は面積約125ヘクタール、東京ドーム26個分の広さで春は山菜狩り、秋



は一面のススキ野原が魅力で草原内にある標高821mの三筋山から伊豆七島(伊豆大島、利島など)を望むパノラマは絶景です。清んだ空気の中、是非、皆様にご覧になっていただきたい場所です。また、映画やCM、ミュージックビデオのロケ地としても近年有名になり、年間多くの撮影が行われております。

大会当日はススキイベント開催の数日前ということもあり、銀色に輝く草原散策を楽しむことができます。多くの方に感動してもらいたいと思っております。

そして、当町は温泉と海の町でもあります。湯量豊富な温泉や特産の金目鯛をはじめ海の幸も楽しんでいただきたいと思っております。

当町らしい温泉地のおもてなしで皆様をお迎えいたします。多くの方のご来場をお待ちしております。



各地からの報告

砥峰高原山焼き再開に向けて

(児島浩司：兵庫県神崎郡神河町)

砥峰高原の概要

砥峰高原は、兵庫県のほぼ中央に位置し、雪彦峰山県立自然公園（特別地域）にあり、兵庫県が所有している自然公園内にあります。

砥峰高原内は、関西有数のススキ草原（約 90 ヘクタール）として知られており、秋を中心に 8 万人を超える年間来場者を迎えることから、町は地元活性化と町内全域への観光入込者数の増加を図るために、観光施設として支援を行ってきました。



四季祭実行委員会の取り組み

地元が中心となり、「四季祭実行委員会」を結成され、実行委員会が中心となり、春の山焼き・観月会・ススキまつりなどのイベントを開催してきました。

その中でも、春の山焼きは「神河町の自然財産である雪彦峰山県立自然公園の防火対策とその草原に生育する植生の維持再生を・・・」を目的としており、雪解けを待ちススキが乾いた時期を見計らって実施してきました。近年では、多くの観光客も来られ、ステージイベントや物産販売を同時に行い、神河町における大きなイベントの一つとなっていました。



山焼き再開にむけての取り組み

しかし、平成 29 年 4 月に行われた山焼きにおいて、四季祭実行委員会で火入れ担当がやけどを負う事故が起きました。

事故後、四季祭実行委員会に加えて県、町、警察、消防などの関係機関により、事故の検証を行い、今後の山焼きのあり方について度重なる議論を重ねてまいりました。

また、全国草原サミットにも参加させていただき、同様のイベントを開催されている地域の開催状況や安全対策を基に、本イベント実施についての度重なる検討を関係者により行い、実施計画・安マニュアルの細部にわたる見直し作業を行い



ました。その中では、実施基準を基に事前準備、タイムスケジュール、安全管理（行動・服装と備品・使用機器器具）及び役割分担の明確化を行いました。

さらに、作業班へ事前に説明会を行い、安全意識の徹底を図り入念な準備を行い、当日はマニュアルどおり安全に配慮し、一般の観光客を規制した中での実施となりました。

まだまだ、再開したばかりではありますが、作業人数の確保、役割分担の明確化、安全対策など、より一層の検証と改善が必要であり、地域や関係機関との調整が必要ではありますが。関西有数のススキ草原の保全を行うために、地域が一体となって取り組みます。

全国草原リレー（第20回）

ネットワークの会員を中心に、持ち回りで各地の草原を紹介するのが「草原リレー」です。第20回

は、監事である太田氏に、秋吉台周辺での取り組みについて紹介して頂きます。

秋吉台の野草のチカラ ～サトイモの敷き草がすごい～

（太田陽子：秋吉台草原ふれあいプロジェクト／ネットワーク監事）

ススキの穂が揺れ秋の花が咲き誇り、散策にも良い季節となりました。カルスト台地・秋吉台の上に広がる草原でも、各種の観察会やウォーク、ランニングのイベントが目白押しです。

秋吉台の草原は毎年2月第1週の山焼きで維持されていますが、今懸念されるのは農家の高齢化や減少にもなって採草地が減っていることです。草原の野草は古くから田畑の肥料や牛馬の餌・敷料として利用されてきましたが、秋吉台地域に特徴的な赤土の畑では、サトイモの根元に野草を敷きつめるという使い方が行われてきました（写真1）。

この敷き草の効能を農家に聞いたところ、イモの日焼けや土の乾燥を防いでくれるという答えが返ってきます。雨水がすぐ地下に吸い込まれ、地表で使える水の量が少ないカルスト地域の農地にとっては、

特に土の乾燥を防ぐことは重視されているようです。雑草を抑制する効果はもみガラやワラを敷くのと変わらないようですが、適量な水分の保持には草原の野草の方が良いそうです。また、作物を収穫した後は土にそのまま漉き込まれ、土壌の団粒構造を促進することで粘土質な土の改善に役立つという話もありました。もちろん有機質肥料にもなります。

最近、佐賀大学農学部で染谷孝教授の分析により、秋吉台地域のサトイモの敷き草にも善玉菌が多く存在することがわかりました。サトイモの根元に草を敷き詰めるのが7月の梅雨明け頃、サトイモを収穫するのは10月～11月ですから、草を敷くのは長くても4ヶ月程度になります。染谷先生からは「半年以上野ざらしにした野草が良い」と伺っていたので、少し不安になりながらサンプルをお送りしたのです



写真1 サトイモの敷き草



写真2 左：草マルチ 右：マルチなし

が、結果はとても良いものでした。「1g あたりの拮抗菌数が数十万以上であれば『特筆すべき拮抗菌数』だ」ということですが、サトイモの根元に敷いた野草の拮抗菌数はこのレベルを軽く超えていました。

この拮抗菌の効果はいくつかあるようで、抗菌作用や病原菌を寄せ付けない効果、生長ホルモンや感染防御を行うことで生育を促進させる効果、腐植物質を作り肥料の持ちを良くする効果などです。サトイモの敷き草に草原の野草を使っている地区は秋吉台特産のゴボウの栽培地域でもあるのですが、連作障害を避けるためゴボウは 4～5 年に 1 回しか作りません。ゴボウを作らない年には他の作物を育てますが、その中にサトイモを作る年があります。その際に野草の敷き草を行うことで、次のゴボウ栽培に向けて土壌を改善する効果もあるのだと思います。

実際、敷き草が足りなかったサトイモは生育が悪く、同じ畑の中でも生育状況にかなりの差が出ていました（写真 2：高橋佳孝氏撮影）。野草のチカラを実感する出来事でした。

さて、サトイモの敷き草は 7 月の梅雨明け頃に刈りますが、その場所には秋までに野草が再生し多くの花が咲きます（写真 3）。3 年に 1 回刈る場所では刈らない場所の 3 倍以上の花茎が再生することがわかりました。毎年刈る場所は徐々に草丈が低くなり、優占する植物もススキやネザサからチガヤ、シバへと変わっていきますが、やはり草を刈らない場所よりも多くの花が咲きました。再生した花にはオオウラギンヒョウモン等のチョウ類が訪れることも多く、草刈り場所はほとんどが歩道沿いにあるため観光客の目を楽しませる効果もあります。生育する植物の種類も多く、敷き草を得るための草刈りが生きものの多様さを支える要因のひとつになっていると言えます。



写真 3 草刈り跡のお花畑



写真 4 お花畑プロジェクト

現在、秋吉台の草原の野草を使う農家は、畜産農家も含め数軒に減りました。秋吉台草原ふれあいプロジェクトでは、草原の保全活動と合わせて野草の農業利用のお手伝いをしてきましたが（写真 4）、ボランティア活動では限界があります。野草を畑に使う効果が広く認知され、今後もこの地域の伝統的な農業形態として採草利用が続いていくことが望まれます。

草原をめぐる動き (2019年10月～2020年1月)

- 10/5 自然観察交流会⑦ (場所: 山梨県山梨市牧丘町 乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 10/5 秋吉台お花畑プロジェクト2 (場所: 山口県美祢市秋吉台、連絡先: 秋吉台草原ふれあいプロジェクト事務局)
- 10/6 大阪府内カヤネズミー斉調査 モデル調査 (場所: 京都府桂川河川敷、連絡先: 全国カヤネズミ・ネットワーク)
- 10/19-20 上ノ原の茅刈り (場所: 群馬県みなかみ町、連絡先: 森林塾青水)
- 11/2 自然観察交流会⑧ (場所: 山梨県山梨市牧丘町 乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 11/9-10 われらが紡ぐ 白川郷かややねプロジェクト～秋の一斉茅刈り～ (場所: 岐阜県大野郡白川村、連絡先: 日本ナショナルトラスト)
- 11/16-17 大内宿で茅刈りと茅葺きワークショップ 2019 (場所: 福島県南会津郡下郷町大内宿、連絡先: 日本茅葺き文化協会)
- 11/16-17 茅ポッチ運び出しと山之口終い (場所: 群馬県みなかみ町上ノ原、連絡先: 森林塾青水)
- 11/17 八幡高原の野鳥観察会 (場所: 広島県山県郡北広島町千町原、連絡先: 西中国山地自然史研究会)
- 11/23 草刈りボランティア (場所: 山梨県山梨市牧丘町乙女高原、連絡先: 乙女高原ファンクラブ)
- 11/23 晩秋の蒜山も面白い! 蒜山高原の茅刈り体験会 (場所: 岡山県真庭市蒜山、連絡先: 真庭市蒜山振興局)
- 11/23 千町原の茅刈り (場所: 広島県山県郡北広島町千町原、連絡先: 西中国山地自然史研究会)
- 1～2月 野焼き支援ボランティア 2019年度初心者研修会第1回 (場所: 熊本県阿蘇市小里 阿蘇草原保全活動センター、連絡先: 阿蘇グリーンストック)

※上記以外の情報もホームページで随時公開しています。



上ノ原の茅刈り



千町原の茅刈り

全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol. 40 2019年10月号

全国草原再生ネットワーク事務局

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-84-0262

【編集後記】来年の秋に予定されている「第13回全国草原サミット・シンポジウム in 東伊豆大会」の第1回実行委員会が開催され、いよいよ本番へ向けての準備がスタートしました。ネットワークからも会長と理事が参画し、協力して行っていくことになっています。会員のみなさんの協力と参加により、有意義な会にしていきたいです。引き続き、ご協力をお願いいたします。